

第39号

たちあらい



# 社協だより

社会福祉法人 大刀洗町社会福祉協議会 TEL・FAX 77-4877  
E-mail:tachi-shakyo@kurume.ktarn.or.jp

## 今年もいいことがありますように! 「ガブリッ!!」



(西大刀洗ミニデイの様子)

### 主な内容

- ・平成19年度(平成20年度事業)共同募金B枠配分結果報告 ..... P2
- ・災害に備えていますか? ..... P3
- ・情報のページ ..... P4~5
- ・ミニデイのページ ..... P6



## ●平成19年度(平成20年度事業)共同募金B枠配分結果報告●

社協だより38号で平成19年度の共同募金実績報告をしましたが、今回大刀洗町における配分金が決定しました。

この配分金は、平成19年度大刀洗町で集められた募金から、県内の施設等に配分される『A枠配分』と、同じく県内で行われている民間の在宅福祉サービス(配食サービス・入浴サービス・共同作業所)に配分される『A'枠配分』、大刀洗町における福祉活動の資金となる『B枠配分』に分けられ、平成20年度に使わせていただきます。

今回、『B枠配分』を受けた大刀洗町社会福祉協議会では、皆様からの善意を大刀洗町の福祉に還元できるよう、努めていきたいと考えております。

なお、平成20年度事業として大刀洗町社会福祉協議会が受けた配分金は下記のとおり活用させていただきます。

## ●平成19年度(平成20年事業)B枠配分結果●

配分合計 2,823,700円

○独居老人味噌配付事業(大刀洗町連合婦人会)	70,000円
婦人会による独居老人への味噌配布事業。お中元、お歳暮として配布。	
○老人クラブ助成金(老人クラブ連合会)	100,000円
町老人クラブ連合会への活動助成。	
○老人クラブ連合会スポーツ助成金(老人クラブ連合会)	70,000円
高齢者の健康維持と仲間づくりを目的に、グラウンドゴルフ大会等を行う。	
○高齢者相互支援活動員助成金(老人クラブ連合会)	50,000円
声かけ訪問などを行っている高齢者相互支援活動員の活動充実を図るための支援。	
○身体障害者福祉協会助成金(身体障害者福祉協会)	100,000円
身体障害者福祉協会への活動助成。	
○福祉読本配布事業(社会福祉協議会)	20,000円
県社協発行の福祉読本「ともに生きる」を福祉教育に活用してもらうため町内5年生に配布。	
○保育園福祉推進事業(町内保育園・所 5園)	各50,000円
園児の祖父母を園に招待し、園児との交流を図る。	
○福祉協力校助成金(町内各小中学校 5校)	各50,000円
地域の住民や高齢者と一緒に福祉活動などを行い、児童や生徒に福祉への関心を高めてもらう。	
○ミニデイサービス事業(社会福祉協議会)	1,283,700円
公民館に外出の機会が少ない高齢者を集め、健康チェックやレクリエーション、会食等を行う。	
○社協だより配布事業(社会福祉協議会)	450,000円
町全体の福祉への関心を高めてもらうために、福祉の情報を広報する。	
○車イスバスケットボール大会支援事業(ひばりカップ実行委員会)	50,000円
車イスバスケットチームを招き、小学生とのバスケットを通じた交流を行う。	
○母子寡婦福祉会助成金(大刀洗町母子寡婦福祉会)	100,000円
母子寡婦福祉会への活動支援	
○障害児をかかえる親の会支援(障害児をかかえる親の会)	30,000円
障害児をかかえる親の会への活動支援	



## 災害に備えていますか？

### ～大刀洗校区自主防災会の取り組み～

「福岡県西方沖地震」から3年が経ちます。私たちの住む福岡県は、比較的地震が起これにくい地域だと言われていましたが、その常識が覆された出来事ではなかったかと思えます。その反面、この地震を機に、「防災」に関する意識も高まり、福岡市を中心に自主防災組織や災害時の要援護者リストの整備などが広がっています。

大刀洗町では、平成16年より大刀洗校区で「大刀洗校区自主防災会」を立ち上げ、災害に備え組織化や研修会等を行っています。設立以来、災害図上訓練や防災センターでの研修、災害時の役割分担など区長・民生委員・地域のボランティアを中心に活動してきました。



(自主防災会代表の東原さん)

2月28日にはNPO法人ふくおか災害ネット代表の酒井澄彦氏をお招きし、日本全国で起こる災害をとおして、住民が主体となった自主防災組織の重要性と必要性をご講義いただきました。

講義では、災害が起きたとき、まず自分の身を守り（自助）、次に皆でできることをし（共助）、その後行政や警察・消防が救出や避難所運営などに動き出す（公助）。しかし、一番必要であると考えられる（公助）の

部分が動き出すのは早くても2日程度かかるそうです。そこで重要になるのが住民自身が行う（共助）の部分です。災害時に一番被害に遭うのが高齢者や障害者であって、そういった方たちを災害から守るためには、地域で災害に対する意識を持ち、災害から住民を守る組織化をする必要があるということでした。

福岡県は、台風や水害の被害もありますし、福岡県西方沖地震の影響で警固断層による地震が30年以内に6～7%の確率で起こるであろうということでした。



(ふくおか災害ネット代表 酒井氏)

「災害は忘れた頃にやってくる」とよく言われますが、起こった後では遅いのです。災害に対する備えは各家庭でも行っていることと思いますが、地域には誰かの助けがなければ災害を乗り切れない人たちもたくさんいます。皆で助け合って災害を乗り越えられる地域を作るためにも、これから自主防災組織が必要になってくることと思います。





## 情報のページ

## 社会福祉協議会役職員研修会 (2/7)

社会福祉協議会の役員及び職員で、他市町村社協の先進的な事業の視察のため、大分県中津市社協本耶馬溪支所へ行きました。

中津市は、平成16年に1市3町1村で合併し、現在人口が約8.6万人・高齢化率24.4%と比較的高齢化率の高い自治体です。その中で、今回視察した旧本耶馬溪町は人口約3.6千人・高齢化率33.3%と非常に高齢化が進んだ地区です。

ここで先駆的に行われている事業が、「ふれあいネットワーク活動」と「住民参加型有償サービス」です。

「ふれあいネットワーク活動」は、大刀洗町でも行われている安否確認などを目的とした声かけ訪問ですが、「住民参加型有償サービス」は近隣でもあまり行っていない事業でしたので、この事業を中心に研修が行われました。

この「住民参加型有償サービス」とは、自助・互助の精神を基調とした地域の“ボランティア的な”意識を持たれた人々（協力会員）と、定額有料（非営利）のサービスを必要として在宅で自立した生活を営む人々（利用会員）とが、地域に暮らす住民一人一人が、互いに助け合う社会の構築を目指し、地域福祉の向上に寄与することを目的としたサービスです。また、福岡県内ではあまりこういった事業は実施されてはいませんが、これからの地方自治のあり方が公助から住民中心の自助・互助という流れになりつつありますので、いずれは考えていかねばならないことではないかと思えます。

こういった事業を行うには、まず、住民同士の信頼関係や地域づくりが基礎になればなりません。大刀洗町社会福祉協議会では、これからも「小地域福祉活動」と「ミニデイサービス」を中心に地域づくりを進めていきたいと思えます。



## 第16回ひばりカップ車椅子＋ミニバスケットボール大会 (1/29)

平成18年度（平成19年度事業）共同募金配分金事業

毎年共同募金の配分を行っている「ひばりカップ車椅子＋ミニバスケットボール大会」が1月20日（土）大刀洗勤労者体育センターにおいて開催されました。

町内外でミニバスケットをしている小学生10チームと車椅子バスケットボールチーム、その他チーム関係者とその保護者など大勢の方が集まり、車椅子バスケットやミニバスケットを楽しみました。

子ども達にとっては、学校での福祉体験などで車イスに接することはあっても、その車イスのほとんどが介護用で、今回のような競技用の車椅子に乗るのは初めてだったようです。車イスの走らせ方やターンの方法などを参加チーム全員で体験し、それが一通り終わったら、車イスバスケットチームの方も混ざってのゲームです。試合が開始すると、なれない車イスの操作でバスケットどころではないようすですが、終盤になるとコツを掴んだのか、みんな動きが良くなってシュートも入るようになったようです。

車イスバスケットというスポーツをとおした交流から、子ども達の障害や車イスに対するイメージも変わったことと思えます。





## 母子寡婦福祉会 親子料理教室 (2/23)

2月の母子寡婦福祉会の活動は、親子料理教室を行いました。

中央公民館調理室にて、大人15名、子ども5名の参加で、矢永栄養士さんにご指導を受け、ビビンバ・揚げゴボウのごまあえ・ひじきのマリネ・ポークビーンズを作りました。また、子ども達はお母さんと一緒にハンバーグに玉子スープ、デザートに挑戦し、豪華なランチができました。

その後は、みんなでおしゃべりをしながらの昼食。自分達の作った料理に自画自賛しながら、なごやかな時間を過ごしました。

大刀洗町母子寡婦福祉会では、年間を通していろいろな行事をみんなで作って、楽しく意義ある会になるよう頑張っていますので、皆様のご参加お待ちしております。

問い合わせ先 大刀洗町社会福祉協議会 77-4877



(じょうずに切れるかなあ・・・)



## 防災センターで災害体験

～ボランティア連絡協議会視察研修～



(1回体験しとくとよかもんね)

去る2月21日(木)大刀洗町ボランティア連絡協議会の会員15名が福岡市民防災センターにおいて様々な災害体験を通して防災に関する研修をしました。煙が充満した薄暗い迷路をめぐる火災体験や、室内セットでの震度5・震度7の地震体験は、訓練とわかっていても想像以上の恐怖を感じたり体が思うように動かなかったりで災害時の心理状態を体験することができました。また、現物大の火災映像を見ながらの模擬消火訓練は、自分の体を使って消火をするということがいざという時の対処につながるのと事でした。

体験の後は防災についての講話を聞きました。その中からいくつかを紹介します。

- 見つかっていない活断層は多数あり地震はいつきてもおかしくない、大型家具を固定したり窓にフィルムを貼るなど日頃からの備えが大切
- 救急車には限りがある、災害がおきたとき自分の身は自分で守れるようにしておく
- 自分の安全確保が最優先、自分が守れていないと当然人は助けられない。





# ミニデイのページ



今月の掲載分は、どちらもお食事中的ものですが・・・みんなで食べるとおいしさもひとしお。楽しげな様子がよく伝わります。ほとんどの地区がこのような集まりがあります。お誘い合わせの上、どしどしご出席下さい。

## 中川ミニデイ

以前のミニデイで、スキヤキゲームをし、「みんなで鍋をするのもいいかもね」という話が現実になり、今回の昼食はみんなでスキヤキを楽しみました。

材料の野菜は、ほとんどが中川でとれた新鮮なもの。一口ほおばればみんな笑顔がこぼれます。この日はとても寒い日でみなさん「なかなか温もらんねー」と言っていました。昼食を食べ始めたら「暑か！窓はあけようよ！」と、いつの間にかみんなの顔は真っ赤っか。

おかげさまで、心も体もぼかぼかになって、とても楽しい1日を過ごすことができました。



## 西大刀洗ミニデイ

表紙でも紹介しましたが節分にちなんで、2月はボランティアさんの手作りの極太恵方巻きをみんなで食べました。「せーの」の合図でみんな「ガブリッ!」。「おいしかねー」と言いながら皆さんそのままパクパクと完食してしまいました。食事の後にはもちろん豆まきです。「福は～うち、鬼は～そと」と、投げられる豆を足腰が痛いのも忘れて、皆で取り合います。一日の会の皆さんは本当に元気モンばかりですね。皆さんに「福」が訪れますように。



### あとがき

そろそろ春です。この社協だよりが皆さんのお手元に来る頃は、お花見が真っ盛りの頃でしょうね。

話は突然変わります。先日、ある民生委員さんから「あなたがたの『せーの』の歌詞で、最後はなんて言うの？」という質問がありました。小さい頃から手まり歌としてよく耳にしたあなたがたの『せーの』ですが、最後の部分は皆さん曖昧みたいです。ミニデイに出かけても各地区で違って、「せーの」とか「せーの」であつたり、「つまさかぎやん」であつたり。そこで、インターネットで調べてみました(最近はそのように便利ですね)。すると「せーの」が分かってきました。なんと・・・ばらばらでした。全国各地で歌われているので、伝わっていくたびに内容が変わっていったんでしょうね。だから、自分の覚えたものを歌えばいいんじゃないかと、勝手に解釈させていただきました。

こういつたことは、方言と同じで非常に地域性が現れる事ではないかと思えます。正しい歌詞もあるんでしょうが、大刀洗の「あなたがたの『せーの』」も大事にしていきたいですね。

ちなみに、調べていたら「あなたがたの『せーの』にはもう1曲あつて、それは『狸』ではなくて『エビ』を漁師さんが網つかまえて、相変わらず煮て食べるんですよ。」